

中播磨新地域ビジョン検討に係るキーワード整理

○第 1 回中播磨新地域ビジョン検討委員会 (8/27)

区分	キーワード
全般	<p>[新ビジョン検討の方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中播磨」という名前を消しても中播磨だと分かる特色を打ち出す ・新ビジョンでは、検討委員会メンバーが力を合わせて新しい価値観を作り出す必要がある ・人口減少下でリソースが限られている中、一つの取組を周囲にどう波及させていくかがポイント（ポテンシャルをどう広げていけるか） <p>[中播磨の地域性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしそのものが安定しており平均をとったような地域であるため、魅力を感じにくい（特別なものが際だってある地域ではない） ・中途半端に恵まれていることが中播磨地域の課題（チャレンジしなくても何とかなる） ・人の穏やかさは播磨の強みだが、一方で何か問題提起をしても現状維持の傾向がある
観光交流	<p>[観光]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナの時に選ばれる観光地になるには住民の力が不可欠 ・住民が安心して観光客を迎えられるような基盤整備が必要 ・日帰りではなく、中播磨全体で何泊か滞在してもらえる旅行プランの作成 ・観光客が観光地に溶け込み、気兼ねなく長期滞在できる観光スタイル(人と人とのコミュニケーションがキーポイント) ・大学のゼミ合宿を家島に誘致（リピーターづくりにつながる） <p>[地域資源の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然（田んぼや畑などの田舎は地域の資源） ・播但線や姫新線などの鉄道は中播磨の大きな魅力 ・海につながる川筋文化も中播磨の魅力 ・中播磨が誇る文化財（姫路城などの歴史文化資源、灘のけんか祭りなどの播州秋祭り等）を、これらを支える住民とともに未来に引き継ぐべき <p>[地域活性化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でリモートワークやサテライトが注目される中、田舎の魅力を発信（空き家や廃校等の利活用促進） <p>[人口流出の抑制・移住促進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を機に若者が東京・大阪等に出て行き、人口流出が激しい ・女性に焦点を当てる（子育てのタイミングでUターン） ・中播磨地域の大学（県立大学の2キャンパス等）に県内外から学生が来ることで、第2のふるさとにつながる <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モノが満たされている現代は、人と人とのつながりが大事

<p style="text-align: center;">産業</p>	<p>[労働力の確保]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉・医療分野の人材不足（人材が育たない、職業として選ばれない） ・様々な人材を上手く活用することが必要 ・外国人労働力の活用（在留資格により期間の制約がある） ・中播磨と但馬のつながりが薄くなってきている（但馬から中播磨への労働力の移動に影響） ・農家の高齢化（農業の担い手や新規就農者の確保）が課題 ・漁業に魅力を感じない人が増え、漁協組合員が減少（若者が島外へ流出） <p>[工業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次産業のウエイトが高く、全国でも有数のものづくりのまち ・兵庫県は精密なものを作る最先端の加工が弱い地域 ・航空宇宙分野などこれまで兵庫になかった仕事を播磨に引きつける ・田舎に企業を誘致するのではなく、自ら進出したいと思わせる仕掛けづくりが大事 <p>[農林水産業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の活用は、農業にとってはビジネスチャンスにつながる ・体験見学船で子どもたちに漁業や海の魅力、魚のおいしさを伝える ・漁業と民宿の兼業（兼業で漁業の収入をカバー） <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の要素を産業に結びつけられないか ・人工林の問題（放置される問題、地権者の問題）
<p style="text-align: center;">暮らし</p>	<p>[教育]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジする勇気を与える教育（地域のリーダーの育成につながる） ・地域の魅力や課題を考える教育を行うことで、自発的に地域活動に参加できる子が育つ（自分の暮らす地域への愛着につながる） <p>[福祉]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材不足のため、特別養護老人ホームの整備が進まない ・将来的に増加が見込まれる高齢者の一人世帯を見守る地域づくり <p>[防災]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に対する危機管理意識が低い（中播磨は災害が少ないという過信） <p>[まちづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトなまちづくり ・多核連携型都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク） ・快適で住みよいまちづくり（住みやすいまちづくりが魅力PRの大前提） <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中で女性の発言力は強くなっているが、地域の中での発言力はまだ弱い。女性の活動の場を増やすべき

○中播磨地域「ビジョンを語る会」 ※【 】は開催場所を表す (WS はデザイン会議(ワークショップ))

区分	キーワード
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・中途半端な都会であり、住民がコンプレックスを抱いている (神戸・大阪への憧れ) 【WS】 ・テクノロジーばかりが注目されるがアナログだからこそその価値がある 【WS】 ・チャレンジしワクワクしている大人や、刺激、学びが都市部に比べて少ない (住むことや働くことにワクワクできる環境づくりが必要) 【WS】 ・周りの目を気にせず自由に行動でき、周りの人もそれを当然のことと受け入れるまちづくりが大事 【WS】 ・地元が好きで残りたい思いはあっても、生活していくためにはやはり仕事や住むところも必要 【福崎】
観光交流	<p>【観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路城が有名すぎて、他が目立たない (姫路城中心の観光プランや公共交通アクセス) 【WS】 ・姫路城だけを見て帰る通過型観光ではなく、姫路城以外の魅力 PR により滞在時間を延ばすことが必要 【姫路】 ・「観光」は観光地の見物等がメインであるのに対し、「交流」は地元住民との交流を通してファンを増やし、移住等による人口増につながる 【姫路】 ・知らない地域に呼び込む「観光」は「交流」が芽生えるきっかけ (姫路城で引きつけた人を「交流」につなげる仕掛けづくりが必要) 【姫路】 ・姫路城という人を引きつけるものがある貴重さ (強み) を地元住民が自覚し、その上にプラスαを積み上げることが大事 【姫路】 ・網干はたつの市の新舞子と昔から交流があるため、揖保川を挟んだ東西エリアで売り込んだ方が観光面では良いのではないかと 【姫路】 ・観光地ではない坊勢島では、子ども向けの体験見学船を導入し、産業 (漁業) を観光として見せている (幼少期の体験は 30 年後につながる) 【姫路】 ・観光地やスポーツイベント等で来訪者に一番最初に接する人の対応が大事 (親切・丁寧な対応でイメージが向上し、リピーターにつながる) 【姫路】 <p>【地域資源の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内唯一の世界遺産である姫路城があることで、副産物 (姫路城とのコラボ商品等) 等の波及効果がある 【WS】 ・日本遺産に認定された「銀の馬車道」の活用 【姫路】 ・コロナ禍の中で、実際に足を運ばなくても史跡・文化財等を見学できる映像を SNS 等で試行的に発信 (リアルな集客への波及を期待) 【姫路】 ・目立った観光資源がなくても、「癒やし」「非日常」等のキーワードを使ってイメージで売り出すことは可能 (町外の人にとっては魅力) 【姫路】 ・町を出て行った人は盆や正月には帰ってこないが、祭りには子どもを連れて帰ってくる (みんなで汗を流す「遊び」が地域活性化に) 【福崎】 ・祭りは世代を超えた縦の付き合いができる場 (地域やそこに住む人とのつながりができると愛着がわき、人口流出も減るのではないかと) 【福崎】

<p>観光 交流</p>	<p>[人口流出の抑制・移住促進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の高齢化が進む中、町外の若者と交流することで村を維持していきたい（週末滞在等による交流人口の増加）【神河】 ・Iターン等により都市部から新しい人を受け入れる際に、草刈りなど従来からの集落作業がハードルになる【神河】 ・自然環境に恵まれ、都市部（姫路）にも近い家島はクリエイター職にとって最適な活動拠点（ワーケーション、テレワーク等）【姫路】 ・企業や工場を誘致する代わりに、ワーケーションや移住など個人を呼ぶ時代（一人一人のオーダーやニーズに応えることが大切）【姫路】 ・人口減少下において外国人を一住民として迎え入れられる地域をつくれるかどうか大きな鍵を握っている【姫路】 ・出て行く若者を無理に引き留めるのではなく、外からの人（外国人含む）を受け入れ、仲間に取り込むことも大事（付き合い方次第でできる）【福崎】 <p>[地域コミュニティの維持・再生]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路市は自治会加入率が高い（約90%）が、将来的に維持できるか心配（コミュニティが疲弊し始めている）【姫路】 ・地域力とは、地域コミュニティの力であり、集団の力をいかに継続していくかが非常に大事【姫路】 ・地域力を高める活動として住民全員参加の草刈りを実施（子どもとの交流・教育の場、高齢者の健康状態確認の場として重要）【姫路】 ・若い世代は、仕事を休んだり、自分の時間を使ってまで地域活動をしてくれない（将来のリーダー・後継者が育たない）【姫路】 ・昔と違って共働きの家庭が増えているので、地域活動（自治会、婦人会、子ども会等）は負担が大きい（役員の負担軽減が必要）【姫路】 ・人数が少ない過疎地域では、一人が複数の地域団体の役を兼任し負担が大きいため、地域活動が停滞（やりたくても手が回らない）【姫路】 ・地域団体同士の横のつながりや交流・協力が大事（組織の形にこだわり、しがらみがあり過ぎる）【姫路】 ・ボランティアに意欲的な若者と地域コミュニティの間の断層ギャップ（若者が考えるボランティア・地域活動と自治会活動等との乖離）を埋めないと、若者を引きつける地域組織はできない【姫路】 ・地域住民同士の交流が少なく、地域間でも一体感がない（地域活動をする人とならない人の格差が広がっている）【WS】 ・村の地域活性化委員会は、集団で物事に取り組むことに慣れておらず難航（地域を取りまとめて引っ張るキーマンの存在が重要）【姫路】 ・地域活動に関心があっても、地域コミュニティの中で居場所を見つけれない人もたくさんいる【姫路】
------------------	--

産業	<p>[先端技術の活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的な技術を活用したスマート農業を導入していかないといけない（若者に魅力的に映り、作業の効率化も図れる）【姫路】 ・ 製造業も自動化が進み、従来、職人に頼っていた作業が若い人でもできるようになってきた【姫路】 ・ 製造業も若者の力を借りながらデジタル化に挑戦（生まれたときからスマホやインターネットがある世界で育ってきた若者は発想が柔軟）【姫路】 ・ これまでの伝統や技術をしっかり受け継ぎながら、IT化・スマート化等の新たな時代に対応していくことの両立が今まさに問われている【姫路】 <p>[労働力の確保]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手後継者の育成が必要（十分な技術を持っていても、経営全体に目を向けるのに時間を要する後継者が多い）【姫路】 ・ 儲かる企業体質を作らないと後継者は育たない（儲かる事業であれば、モチベーションが向上し、積極的に勉強・活動する）【姫路】 ・ IT教育を受けた人が今後どんどん増えれば、30年後に必要な人材が確保できるのではないか【姫路】 ・ 農業も若者に魅力的に映る仕事にしないとどんどん人が離れていく【姫路】 ・ 若者が山間地に入ってきて新規就農できるようにするには、制度等の見直しや地域側の受け入れ体制の整備が必要【神河】 ・ 林業も人材確保が課題（伐採は機械の導入が進んでいるが、木を植えて育てるのは人海戦術）【姫路】 ・ 漁業見学船で、魚離れの進む小学生向けに漁業の現状・魅力を発信することで、将来の漁業従事者が出てくることを期待【姫路】 ・ 第一次産業は体力勝負であるため、若者から敬遠される（儲からないと後継者も育ちにくい）【姫路】 ・ 小学生向けの菓子アイデアコンテストや菓子教室等を開催し、菓子業界に興味を持つ人材を育成【姫路】 ・ いくら人材育成、人材確保と言っても少子化で子どもの数が減っている問題を何とかしないと根本的に解決しない【姫路】 ・ 現場が求める仕事内容と若者が期待する仕事内容の間にあるミスマッチの解消に向けて、互いに歩み寄る努力をすることが大事【姫路】 <p>[儲かる第一次産業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で国内の食糧自給率アップが求められる中、「儲かる第一次産業」が今後のキーワード（国内のサプライチェーンの回帰）【姫路】 ・ 第一次産業で儲けるためには、消費者に近いところと連携し、卸業者による中間マージンを減らすことが必要【姫路】 ・ 子どもに漁業を継がせるのが当たり前だった時代には、収入面の裏付けがあった（儲かるのであれば今でも親は漁業を継がせるはず）【姫路】 ・ 第一次産業は自然（天候）との戦いであるため、なかなか「儲かる」とリンクしにくい（自然に左右されない農業等の工業化が必要）【姫路】
----	---

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次産業のIターン者は必ずしも収入目当てばかりではないので、彼らの価値観を知ろうとすることも大事（世代間ギャップの存在）【姫路】 ・第一次産業でも農業や林業等を組み合わせた多様な働き方（生計を立てるために必要な情報のパッケージ化）が提示され、そうした情報がオープンになっていることが大事（田舎への移住の判断材料になる）【姫路】 ・農業では、儲けだけではなく、儲け度外視でも集落営農等で農地を守っていく（農地保全）という考え方もある【姫路】 <p>[新たな産業の育成・業態の変換]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進み地域の活力が低下する中、新しい産業の育成が必要（中播磨地域の強みを生かしつつ次世代産業を育成）【姫路】 ・二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減が求められる中、二酸化炭素を排出する製造業は業態の変換が迫られる（逆にそれが新しい産業になっていくのかもしれない）【姫路】 ・獲るだけの漁業はお金にならず限界が来ており、漁業者が減少。養殖業や、観光の要素を取り入れた「見せる漁業」がこれから先は重要【姫路】 ・商業では日本遺産「銀の馬車道」の活用による活性化に期待【姫路】 ・観光産業はまだまだ開拓の余地がある（姫路を中心とした広域観光）【姫路】 <p>[起業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田舎から起業家をどんどん輩出し、中播磨地域を元気に【WS】 ・少子化の中でも尖った人材が出てくることを期待【姫路】 <p>[農業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大消費地・姫路の周辺に農村地域があり、地産地消ができる【WS】 ・農業では、名産のもちむぎを基盤に6次産業化を進めたい【福崎】 ・農業主体の福崎町でも若者の農家離れが進み、耕作放棄地が増えているため将来が不安（地域の景観が損なわれていく）【福崎】 <p>[林業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギやヒノキ、松等の活用の研究が進み、将来的に新たな活用方法（鉄に代わる材木等）の開発が実現すれば、林業の振興につながる【神河】 ・成熟した森林が放置状態にならないよう、人の手でいかに守っていくかが大事【姫路】 ・将来に期待して40～50年前に植えた材木の伐採時期を延ばす（一斉に伐採すると金にならないため）と山が循環しない【姫路】 <p>[地場産業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮革産業も素材を提供するだけでなく、自分たちで商品を作って姫路ブランドを世界に発信することが大事（世界のデザイナーが姫路に集まるような魅力的な皮づくりをしないと30年後まで続かない）【姫路】 ・姫高皮革事業協同組合では、姫路工業高校と連携して将来のクリエイターを育成（デザイナーとして世界の頂点を目指す）【姫路】 ・菓子業界は閉鎖的であったが、2008年の姫路菓子博で全国の菓子や技術に触れたことで職人が刺激を受け、業界が活性化【姫路】
----	---

産業	<p>[環境保全]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで景観が良い地域も都会の倉庫になりつつある【WS】 ・ポイ捨てによるゴミが多い（住民によるゴミ、観光客によるゴミ）【WS】 ・上流の過疎地域で森林が荒れると里山の保水性が失われ、下流の河川の水害につながる（街中の人の上流と交流し、山の管理等を手伝う）【姫路】 ・治水の要は治山にあり（上流域を保全するためには山をしっかり守っていくことが必要）【姫路】
暮らし	<p>[子育て・教育]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援は、親が気安く相談できる場所づくりが必要【福崎】 ・地域ぐるみでの子育てや見守りが困難になっている（最近の子どもはゲームばかりで外に出ないため、どこの子どもか分からない）【福崎】 ・文化の継承（祖父から魚の捕り方を教わる等）が残っているのが中播磨地域の良さ【WS】 ・高校中退者を受け入れる土壌づくりが必要（教師のマンパワー不足を地域でカバー）【WS】 <p>[福祉]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所ボランティア（ゴミ出し等の困りごとを近所で有償で助け合うシステム）を導入したところ非常に好評【姫路】 ・地域福祉の認識を深めるには、小中学生からの福祉教育が必要【姫路】 ・人生100年時代を迎え、様々な高齢者（元気、体が不自由、一人暮らし等）が地域社会の中で互いに協力・助け合う仕組みづくりが必要【姫路】 ・定年後の元気な高齢者が介護講習を受講（行政が受講料を支援）し、後期高齢者を支える仕組みはどうか【姫路】 ・高齢者が社会とつながる居場所づくりの役割を果たす老人クラブは、会員が減少傾向（社会からの隔離による認知症リスクの高まり）【姫路】 <p>[防災]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中播磨地域で予想されている最大震度は7（山崎断層）であるが、住民の防災意識が低くあまり知られていない（防災が自分事になっていない）。企業人や子育て中の母親など様々な人に、防災に少しでも関心を持ってもらうための工夫が必要【姫路】 ・江戸時代に姫路に作られた防災備蓄倉庫「固寧倉」（姫路周辺に8カ所現存）は大事な地域遺産であるが、ほとんど知られていない【姫路】 ・消防団の消防車や装備の性能が上がってきており、更新するのに費用がかかる（大半を村で負担しないといけないため苦しい）【福崎】 <p>[まちづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会において上下水道や道路、文化施設等を維持するためには、広域化や先端技術導入等によるコストダウンが必要【神河】 ・市街化調整区域を市街化区域に見直し、住宅を建設可能な地域を増やすべき（地元の家を建てる場所がなく、町外に出て行く人がいる）【福崎】

暮らし	<p>[交通]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中播磨地域は県中央部に位置しており、神戸や但馬など県内各地へのアクセスが良い【WS】 ・地域によって公共交通網に差がある(車社会のため車がないと不便)【WS】 ・高い船代(片道1,000円)が家島へのアクセスのネック【姫路】 <p>[コミュニケーション]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニケーションの場づくりが大事(コロナ禍によるコミュニケーション不足でギスギスし、ちょっとしたことでトラブルに)【福崎】 ・コロナ禍で祭りや伝統行事等がすべて中止になり、地域での触れ合いの機会がなくなった(来年も再来年もこの状態が続くと今まで築き上げてきたものが崩れ去り、地域は持たない)【福崎】 <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規居住者や外国人が増え、地域のつながりが薄くなることで、困っている人が見えにくくなっている(民生委員として悩ましい)【福崎】
-----	---